

第54回 土岐市地域公共交通活性化協議会 議事録

日時：令和8年3月24日（火）10：00～11：00

場所：土岐市役所・3階大会議室

（参加者）

※敬称略

委員	磯部 友彦	林 世紀（代理）	中島 喜久夫（代理）
	水野 礼二（代理）	早瀬 貴久（代理）	吉村 昭典
	宮地 統久	三輪 やよい	加藤 千恵子
	内記 康希（代理）	加藤 美由紀	坂本 光浩（代理）
	武藤 良典（代理）	牧村 潤一	平田 宏保
	渡邊 豪	鈴木 正義	鷺見 直人
	籠橋 昭範	熊崎 直美	堀部 誠（代理）
	西部 浩司		
事務局	伊藤 智治	古田 貴祐	西尾 祐人

欠席 稲垣 健児委員、田中 英治委員、澤田 利幸委員、高柿 弘義委員

■議長選出

- ・磯部副会長を議長に選出

■報告事項1：令和7年度公共交通利用者数と協議会事業報告

（事務局）

- ・資料1について説明

(1) 令和7年度 公共交通利用者数報告

市民バス：全体では増加したが、新規運行の「肥田線」を除くと微減～横ばい傾向。
予約あいのりタクシー「のってこ」：横ばい傾向。固定客が増加により増加した路線あり。
どんぶりバス：減少傾向。収支改善のため、本年2月に運賃改定とダイヤ減便を実施済み。
東鉄バス：減少傾向。路線の縮小やコロナ禍以降の利用控えが影響。

(2) 令和7年度 事業報告

主な事業：AI デマンド実証実験（10月開始）、公立東濃中部医療センター開院に伴うバス再編（2月実施）等

計画全体の進捗評価：概ね順調（○評価）だが、一部課題（△・×評価）がある施策は令和8年度に重点実施。

〈意見・質問〉

(渡邊委員)

・2月1日に開院した中部医療センターへの再編ダイヤについて、現在の利用状況は想定と比べてどうか。

(事務局)

・現在、肥田線で往復6便、南北線で1便を確保している。1ヶ月の累計利用者数は片道で約800人。8:15土岐市駅発の便が最も多いが、9時以降の便や南北線については、当初の見込みよりは「若干少ない」という印象を持っている。今後も継続的な検証が必要。

(吉村委員)

資料(4ページ)を見ると、東鉄肥田線の利用者が令和元年の約7万人から令和3年には2.4万人と、1/3近くまで急減している。大型二種免許が不要な「ハイエース」などの小型車両に変更して、コストを抑えつつ本数を維持する考えはないか。

(水野委員代理)

・コロナ禍による急激な落ち込みに加え、乗務員不足による減便という悪循環が起きている。本数を減らせば利便性が下がり、さらに客が離れるという厳しい状況が続いている。11名以上乗車可能な車両は、小型であっても「大型二種免許」が必要となるため、免許区分の壁があり現状では導入が難しいのが現状。

(磯部委員)

・コロナや人口、年齢構成の変化など要因は複雑。単一の理由で片付けず、トータルで数字を分析していく必要がある。

■協議事項1：令和8年度予算(案)及び事業計画(案)

(事務局)

・資料2について説明

(1) 令和8年度 予算(案) および事業計画(案)

予算額: 歳入歳出それぞれ 5,478,000円(市負担金)

【主な事業内容】:

- －第2次地域公共交通計画の策定
- －濃南地域を中心とした交通網の調査・検討
- －高校生向け通学マップ配布、利用者アンケートの継続
- －運賃のシームレス化(共通乗車券等)の検討

(渡邊委員)

・市民バス定期券購入窓口である東鉄の土岐店が閉店するというニュースが出ていた。今後定期券を買おうとすると瑞浪や多治見に行く必要があるので、アプリで定期を買うことができたらなんとかなる人がいるのでは。また、市内のどこかで買えるような方策はあるか。

(事務局)

・場所、やり方を含め、いろいろな課題があるが、東濃鉄道様の業務の1つでもあるため、事業者と協議をしながら検討を進めていきたい。

(水野委員代理)

・店舗の閉鎖については、店舗維持のための収入確保が困難なこと、事務スタッフの不足が理由であり、ご迷惑をおかけしている。東鉄バスでは、スマホアプリでの「デジタル回数券・定期券」を推奨しており、高校の入学説明会でも案内したが、好評で以前よりデジタルで購入する生徒は増えている。高齢者にはハードルが高いため、対面での販売をどう確保するか、市と継続して協議する。

(加藤(千)委員)

・令和8年度予算案で「委託料(約500万円)」が突出して大きい。具体的な内容は。

(事務局)

・次年度は「第2次計画」の策定年度にあたるため、例年のコンサルタントへの現計画の推進業務に加え、次期計画策定に向けた専門的な調査委託料が含まれており、例年の倍近い額になっている。計画素案の策定のほかにも、乗降データの分析、バスマップの作成、バス停掲示物の更新(中部医療センター対応分)など多岐に渡る。次年度の業務としては16ページ参照。

(渡邊委員)

・令和9年4月に中京学院大学の移転が笠原中学校跡に計画されているが、通学に土岐＝笠原線(東鉄バス)が利用されることは想定しているか。

(事務局)

・乗継環境の整備ということで次期計画の中では位置づけられる。状況をみながら協議会にも諮っていきたい。

(渡邊委員)

・市内からの通学や、学生が家賃の安い土岐市側に住む可能性を考慮し、ダイヤ編成の検討

が必要。

(磯部委員)

・人が集まる施設ができるということで、関係機関で連絡を取り合って連携いただければと思う。

(磯部委員)

・協議事項1について、原案どおり、承認でよろしいか。

・承認

■協議事項2：第2次土岐市地域公共交通計画（素案）

(事務局)

・資料3について説明

(加藤（千）委員)

・アンケートは利用者だけでなく、「なぜバスを利用しないのか」という非利用者層の声も拾うべきではないか。

(吉村委員)

・アンケートの際、市の公式LINEを活用すれば、より広範囲から意見が集められるのではないか。

(事務局)：いろいろな方からのご意見をいただきたいので、ご提案の内容を含め、検討していきたい。

(磯部委員)

・協議事項2について、原案どおり、承認でよろしいか。

・承認

(事務局)

・次回の協議会（原案決定）に向け、ご意見があれば4月15日までに事務局までご連絡願いたい。いただいた意見は、磯部副会長とご相談しながら計画案に反映させていきたいと考えている。

以上